

こうちミュージアムネットワーク通信

2013. June VOL.11

目次 CONTENTS

- 「新たな10年」..... P1
- こうちミュージアムネットワークについて・略年譜・主な活動..... P2～3
- コラム「がんばる高知のミュージアム」..... P4～6
- 活動報告「地域資料保存に向けた取り組み」・時の話題..... P7
- 会員一覧..... P8



1



2



3



4



5



6



7



8



9

1 四代藩主豊昌所用 兎耳形兜 (提供: 土佐山内家宝物資料館)、2 具同中山遺跡群出土 龍泉窯系青磁碗 (提供: 高知県立埋蔵文化財センター)、3 鯨船 (提供: 高知県立歴史民俗資料館/山崎茂氏寄贈郷土玩具)
4 寺田寅彦「石油ランプ」直筆原稿 (提供: 高知県立文学館)、5 絵金「伊達競阿国戯場 累」 (提供: 絵金蔵/香南市赤岡町本町二区所蔵)、6 横山隆一「フクちゃん」 (提供: 横山隆一記念まんが館)
7 高知県花のヤマモモ (提供: 高知県立牧野植物園)、8 高知県の天然記念物・ヤイロチョウ (提供: わんぱくこうちアニマルランド)、9 マンボウ (提供: 高知県立足摺海洋館)

◆ 新たな10年

こうちミュージアムネットワークは、平成25(2013)年3月で設立10周年を迎えました。それまで高知県内には、県下全域を網羅した博物館協議会や連絡会は存在しませんでした。当会は、博物館施設だけでなく、広く資料の研究・保存・展示・公開を行う関係機関が結集したユニークな組織になりました。

この10年、会員館の協力で様々な取り組みを進め、その中から多くの有益な繋がりや成果が生まれています。

しかしながら、地域資料の保存・継承という点では厳しい状況が続いています。当会は、昨年度『歴史資料』の保存等に関するアンケートを行い、今年度からは、その成果をふまえ、モデル地区での現地調査に取り組むとともに関係機関との連携をさらに進展させようと計画しています。

これらの事業は災害前に何をしておくべきかを問い続けていくものです。あわせて会員の連携交流に基づく成果の情報発信など、新たな10年の活動を通して、高知県の文化振興に貢献したいと考えています。

こうちミュージアムネットワーク
会長 宅間一之

「こうちミュージアムネットワーク」の歩み

「こうちミュージアムネットワーク」は、平成15（2003）年3月5日、県内の資料館や美術館などの博物館施設や図書館、そして教育委員会などの行政機関が集まり設立されました。

このネットワークは、平成13年度の「山内一豊入国四〇〇年」に際し、県内の博物館が連携して行なった共同企画が好評だったことから、その委員会を発展的に継承したものです。

会則の第2条には当会の目的が次のように記されています。

「本会は、高知県における博物館施設及びその他資料の研究・保存・展示・公開を行う文化施設並びに文化行政機関・教育機関（以下「博物館施設等」という。）において情報を共有し、共通問題の検討・協議を通して職員の資質向上を図り、県下の文化施設の活性化及び県民の求める文化的サービスの提供を促進することを目的とする。」

ポイントの第一は、このネットワークが博物館だけに限定されず、図書館や行政機関も加わっていることです。

これは資料を保管している機関が博物館だけに限らないという現状を反映しています。また公立館だけでなく民間の博物館や寺院にも参加いただいています。第二に、さまざまな研修会、見学会、情報交換会を開催し、会員の資質向上および交流の場作りに努めていることです。大型博物館がない本県では、館同士の協力や連携は重要です。第三は、連携に基づいた会報の発刊や共同事業の実施など外へ打って出る企画を実施しています。最大のもは平成21・22年度の「龍馬伝」関連企画でしょう。

これらの事業を実施するために、当

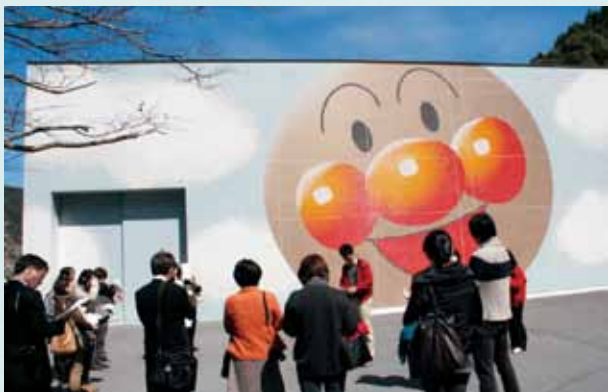
会では企画調整部会（総会、幹事会、情報交換会の開催、会報の編集）、研修企画部会（研修会や講演会、見学会の開催）、教育普及部会（専門的職員リストの作成、ホームページの運営）の3つの部会を設け、事業を運営しています。事務局は、高知県文化推進課、高知県文化財団を経て、現在は土佐山内家宝物資料館が担当しています。平成23（2011）年の東日本大震災以降は、かねてからの懸案だった地域資料の調査に乗り出すべく南海地震に備えた研修会を実施し、市町村等へのアンケートに取り組んでいます（7頁参照）。

こうちミュージアムネットワーク略年譜

平成13	2001	8月～、山内一豊土佐入国400年記念として10館共同企画展「ひと・もの・こころ ー土佐の近世ー」開催（～14年3月）
平成14	2002	5月～、文化施設人材育成事業によるネットワーク設立検討会（～15年2月・計10回）
平成15	2003	2月、『こうちミュージアムネットワーク設立検討会報告書』刊行
		3月5日、こうちミュージアムネットワーク設立発足式〔会長：坂本正夫／幹事会長：渡部淳（土佐山内家宝物資料館）／事務局：高知県文化環境政策課（のち、文化推進課）、記念講演会「災害に学ぶ記録史料の危機管理と災害対策」〕
		3月20日、専門研修会「公文書等の収集・整理・保存 ー地域資料をのこすためにー」（以後、毎年研修会を開催）
		ホームページ開設
		8月、『こうちミュージアムネットワーク通信』第1号刊行（以後、毎年刊行）
平成16	2004	高知県立図書館書庫未整理資料整理作業（～17年度）
		3月、文化施設人材育成事業として『こうちミュージアム白書2004』刊行
平成17	2005	3月、第1回四国ミュージアム研究会を共同開催（テーマ「ミュージアムのゆくえ」）
		「専門的職員リスト」の刊行（以後、毎年刊行）
平成18	2006	事務局が（財）高知県文化財団に、幹事会長が梅野光興（高知県立歴史民俗資料館）になる
平成20	2008	「花・人・土佐であい博」（20年3月～21年1月）関連企画を各館で開催
		会長が宅間一之になる
平成21	2009	2月、第5回四国ミュージアム研究会を共同開催（テーマ「まちとひとと博物館」）
		3月、学校向け講師派遣案内チラシ「飛び出せ!! ミュージアム」作成
		幹事会長が筒井秀一（高知市立自由民権記念館）になる
		「幕末維新の土佐企画実行委員会」設置
		8月～、「幕末ゆめ道場・幕末維新の土佐 ー博物館学芸員巡回講座ー」開催（～22年3月）
		10月～、「土佐・龍馬であい博」（22年1月～23年1月）関連企画として、「幕末維新の土佐・志の時代展」開催。前期14館、後期21館が参加（～23年3月）
平成22	2010	11月、土佐・龍馬であい博推進協議会と共同で『幕末維新の土佐 探訪図会』発刊
		4月～、学校向け企画「JR特急に乗ってミュージアムへ行こう！」に協力（～23年3月）
		7月～、「幕末ゆめ道場・幕末維新の土佐 ー博物館学芸員巡回講座ー」第2弾開催（～12月）
平成23	2011	7月～、「博物館巡回講座」第3弾開催（～24年3月）
平成24	2012	2月～、高知市広報『あかるいまち』にコラム「歴史万華鏡」リレー連載開始
		事務局が（公財）土佐山内家宝物資料館になる
		会則の一部改正、会計規程・寄附金等事務取扱規程の制定
		「地域資料調査部会」設置
平成25	2013	1月、『歴史資料』の保存等に関するアンケート』調査の実施
		3月、第9回四国ミュージアム研究会を共同開催（テーマ「資料を守るネットワーク」）

主な活動

見学会



会員館のユニークな展示や、施設見学会を行なっています。「高知県立竜宮城」(H20.1.31)や「五台山花絵巻」(H20.6.27)などを見学しました。写真は香美市立やなせたかし記念館の新収蔵庫見学会です(H25.3.15)。

研修会



専門の先生をお招きして、文化財保護や接遇、著作権など多様なテーマの研修を行なっています。障害のある来館者のためのバリアフリー(H20.3.14)、ボイストレーニング(H20.4.12)など、特徴のある講座も実施しました。

ネットワーク通信の発行



会員の情報流通と外向けの広報紙として年1回カラー8頁の通信を発行しています。会員紹介、館長随想、現場通信、展示批評、図書紹介などが主な内容です。その他あまり知られていませんが、ホームページもあるんですよ！
(http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/network/konet_home.html)

情報交換会



相互の情報流通や意見交換を行なっています。指定管理者制度(H19.1.17)、震災とミュージアム(H23.6.8)などです。また、県外へ研修に行った会員がその内容を伝える報告会では、文化財虫歯菌やミュージアム・マネジメントなどの最新事情が報告されました。

「龍馬伝」関連事業



平成22(2010)年はNHKで大河ドラマ「龍馬伝」が放送されました。ネットワークでは前年度から「幕末維新の土佐・志の時代展」と題し前期14館、後期21館が龍馬がらみの企画展を開催。あわせて41頁にも及ぶガイドブック「幕末維新の土佐 探訪図会」を作成、連続講座も実施しました。

連続講座



NHK大河ドラマ「龍馬伝」を契機に、平成21・22年度に一般向けの連続講座「幕末ゆめ道場・幕末維新の土佐」を計20回開催。平成23年度は装いを変えて共通テーマを定めず、さまざまなジャンルの学芸員が多様な話題で聴衆を魅了しました。

がんばる高知のミュージアム

こうちミュージアムネットワーク発足 10 周年を記念して各分野のミュージアムにコラムをお願いしました。展示や催し物はふだんから各館PRに努めているので、ふだんあまり表に出ない活動や、展示や催しの裏側に秘めた担当者の思いを綴っていただきました。あれもこれも大切なミュージアムの活動の一環です。学芸員たちの思いや工夫にふれて、ミュージアムをもっと楽しんでください！（編集部）

歴史 博物館とホームページ



各地のお祭りを見に行きたいけど少し気が引けてしまう、という方は意外と多いかもしれません。実際の進行や雰囲気かわからないのが不安の種。

当館ではインターネットのホームページで「弘瀬の傘鉾」「平田の野菜祭り」など宿毛市内の祭事をダイジェスト映像で紹介しています。祭事映像で雰囲気や情報を予習の上いざ出発、案外どこもアットホームで自然に溶け込めたりするものです。

当館にとってホームページは強力な助っ人で、祭事映像のほかにも『宿毛市史』全項の掲載や民話の紹介をしています。ホームページを見ながらの問い合わせも多く、画像や情報の提供がスムーズになりました。

また、館内では収蔵資料をデジタル画像化して、ほとんどの文書資料については全紙面をパソコン画面上で確認できるようにしています。（要予約）将来的にはホームページにもアップして、広く宿毛の資料を皆様に見ていただきたいです。

（宿毛市立宿毛歴史館 矢木伸欣）

考古 戦争遺跡の調査 ヒトからモノへ



坑道陣地の調査（南国市向山遺跡）

平成7（1995）年、広島原爆ドームが世界遺産となったことを契機に、日本近代の戦争に関する遺跡が文化財保護法の対象となり、他の時代の遺跡と同様に調査や保存が行われるようになりました。

太平洋戦争末期、高知は米軍上陸の有力な候補地として考えられていたことから特攻基地や「本土決戦」陣地が数多く作られました。兵隊が移動するために掘られた交通壕、大砲などを入れるトーチカ、山を貫通する坑道などが随所に残っています。

これらの戦争遺跡の存在は敗戦とともに忘れ去られ語られることはほとんどありませんでした。雑草の中に埋もれゴミ捨て場と化しているところも少なくありません。しかし今から68年前、高知平野で何が起ころうとしていたのか。戦争遺跡はその実相を具体的に物語っています。戦後世代が8割以上を占めるようになった現在、戦争の記憶はヒトからモノへと変わりつつあります。戦争遺跡を記録し保存することは、近・現代の歴史を理解し戦争と地域との関わりを知るうえで重要な意味を持っていると思います。

（高知県立埋蔵文化財センター 出原恵三）

民俗 調べて残そう地域の民具・民俗



県内のほとんどの市町村にあるのに、どうしたら良いのか悩ましいのが民俗資料、通称「民具」です。高度経済成長期以降、農林業の機械化や生活の電化にともなってそれまでの道具が要らなくなりました。昭和40年代以降、各市町村や熱心な個人の方がそれら民具を集めてきました。ただ当時はあまりにも身近なためか名称や使用法の記録が少なく、その後の調査も進まず、廃校や資料館にそのまま残されている所がほとんどです。最近ではいよいよ使い方を知っている方も少なくなってきました。このままではいったい何の道具かさえわからなくなってしまう。

この状況を少しでも打開しようと、高知県立歴史民俗資料館は高知県立大学文化学部と連携し、三原村や津野町の民具調査を行っています。香美市や津野町など独自の歴史や暮らしを知ることでできる生き証人、貴重な文化財です。今のうちに少しでも調査を進めていかないと、地域の事がわからなくなります。まさに時間との戦いです。

（高知県立歴史民俗資料館 梅野光興）

文学 高知県立文学館の冒険—五感で楽しむ文学



中央から遠く離れた高知より、新しい文学館の可能性に挑戦—高知県立文学館は頑張っています！

※「文学 x Media Art展」は、企画展「文学の触覚」(東京都写真美術館・平成19年12月15日—平成20年2月17日)を下敷きとして再構成したオリジナル企画です。

文学館は、作家の遺品や直筆原稿、著作などを集め、保存し、展示する施設です。作家を知らないと思いがわかない資料が多く、難しそうなイメージを持たれがちです。しかも、最近の作家さんの多くは、原稿用紙ではなくパソコンに打ち込むため、展示できる資料自体が今後少なくなる予感がされます。

それでは、どうしたらいいのでしょうか？一つの試みとして、当館で開催したのが「文学 x Media Art展」(平成25年2月9日—4月7日)でした。メディアアートとは、影絵からコンピュータまで、新旧のテクノロジーをユニークに使ったアートです。文学とメディアアートを掛け合わせた作品によって、香りや手ざわりなどの五感を駆使して文学の世界を体験できるので、予備知識がなくても楽しめますし、資料に頼らない展示が可能です。展覧会では、作品を前に老若男女問わず会話が弾み、文学世界の楽しさを共有しあっている姿が見られました。お客様からも高い評価をいただきました。

美術 絵金でつなげる、絵金でつなげる



幕末明治の土佐で芝居絵屏風を大成し活躍した絵金こと絵師・金蔵。高知県立美術館では、平成24(2012)年10月28日より12月16日まで企画展「絵師・金蔵 生誕200年記念 大絵金展 極彩の闇」を開催しました。香美市立美術館、絵金蔵でも同時期に絵金をテーマとした企画展を行い、今までにない規模で絵金関係の作品資料を一堂にご覧いただける機会をつくることができました。

県内外からたくさんのお客様にお越しいただき、絵金生誕200年を賑やかに祝えたのは、絵金蔵・香美市立美術館との合同調査などの連携、先人から受け継いだ調査研究の積み重ね等があったからこそのもので、うちミュージアムネットワーク会員館の方々にも作品調査・拝借等々、様々な形でお世話になりました。

展覧会では新たな取り組みとして、高知大学・松島朝秀准教授と連携して行った芝居絵屏風の科学的調査の報告もしました。平成25(2013)年も松島氏、絵金蔵と合同で、絵金関係の作品資料について科学調査を行います。貴重な地域文化が長く受け継がれていくよう、今後も活動を続けていきたいと考えています。

(高知県立美術館 後藤雅子)

まんが まんがと実物資料のコラボレーション



横山隆一記念まんが館で平成24(2012)年9月29日—11月25日に開催した「横山隆一・長谷川町子二人展」では、副題を「フクちゃん和サザエさんの時代」とし、作品の背景にある昭和時代そのものの紹介を試みました。

両作品には水式冷蔵庫、回転ダイヤル式電話、レコードプレーヤーなど、当時の日常で使われる家電や生活道具がたくさん登場しますが、略画が基本のまんがでは細かい造形がわからず、馴染みがない若い世代には伝わりにくいのでは、という懸念がありました。そこで、昭和資料を所蔵する安芸市立歴史民俗資料館、香南市文化財センター、高知市春野郷土資料館から実物を借用し、まんが作品と並べて展示することで、視覚的な理解を助けました。逆に実物を見ただけではわからない使用方法や時代背景をまんがで補完できたことも新たな発見だったといえます。

作品そのものを読むだけに留まらない掘り下げができたのも、各館の協力を得られたからこそ。異分野館との交流による相乗効果を今後も模索していきたいものです。

(横山隆一記念まんが館 奥田奈々美)

自然史 しまえる場所、無いですか? —高知県産生物資料—



カビが生えてしまった昆虫標本

平成13(2001)年4月より、四国地域の自然の歴史の証拠である四国産生物標本に関わってきました。標本を通じての個人・団体との交流も図ってまいり、四国内外の生物標本を扱う施設との情報交換、連携した展示会の開催等も行っています。

これまで一緒に活動してきた方々から、よく聞かれます。「高知には生物標本をしまえる場所は、どれくらいあるのですか?」と。高知県には、生物標本を保管管理できる体制と設備が整備された施設は限られています。そのため、十分な保管施設を有せず、に苦労している団体や個人の努力によってようやく維持されています。残念ながら、管理している方が亡くなったり、維持を継続できなくなったりすると、破棄されたり県外に流出したりして高知県から消えていきます。紫外線が強く湿度が高い高知県では、昆虫の展翅標本や鳥獣の剥製などの乾燥標本の維持管理が難しく、色あせ、カビだらけ、虫食いだらけとなった標本を、この10年の間にずいぶん見ました。

こうちミュージアムネットワークとして、生物標本を高知県に留め置く活動を展開すること、切に希望します。

(四国自然史科学研究センター 谷地森秀二)

植物園 海外にも展開する研究活動



ミャンマーナマタン国立公園にて、採集した植物をその場で新聞紙に押しつけて標本を作製する調査隊員や現地国立公園自然保護官（平成24年12月）

日本の植物学の父ともいわれる牧野富太郎博士の業績を顕彰し、世界水準の、日本が誇るべき植物園にという使命のもと、研究活動を続ける高知県立牧野植物園。地域と連携した植物園として、高知県植物誌編纂事業をボランティアと協働で実施し植物誌を出版（平成21年）、以降も地域の植物分類・生態学的研究調査を進め、シカの食害から希少種を保護する活動や生育域外保全として植物園での系統保存など、植物の保全活動に積極的に取り組んでいます。

海外探査研究では、アジアのラストフロントエリアとも呼ばれるミャンマーにおいて、園長小山が先導し世界に先駆けて平成12（2000）年に調査を開始、植物多様性解析研究を継続している世界唯一の機関であり、現地探査によって腊葉（押葉）標本を収集、これを同定し牧野植物園標本室（MBK）に収蔵しています。これまで採集されたミャンマー産標本は1万8千点ほどになり、世界有数のコレクションです。また、ミャンマーでは国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業を行っており、生物多様性条約に基づいて、自然環境を保護・保全する人材育成を中心に活動を進め、植物多様性研究において両国がwin-winの関係になるよう体制を構築しています。

（高知県立牧野植物園 藤川和美）

動物園 動物園の4つの顔



モルモットについての出前授業（南国市立久礼田小学校）

動物園には4つの役割があり、①レクリエーションの場、②自然保護の場、③調査・研究の場、④教育の場として求められています。昔はレクリエーションの場としての役割を重視した動物園が主立っていましたが、近年、人と動物との関わりに踏み込んだ環境教育や自然保護を重視する動きが強まってきました。

わんぱくこうちアニマルランドでは環境教育の一環として、サマースクールや裏側探検隊を開催してきました。高知市で中学生を対象とした職場体験学習が始まると、当園も受け入れ先の一翼を担い、小学校を対象にカリキュラムに即した出前授業も行っています。また高知県の野生生物の保護活動に力を注ぎ、特に絶滅危惧種であるオオイタサンショウウオの生息域内・域外保全に取り組み、平成23（2011）年に日動水加盟園館で初めて繁殖に成功しました。このような活動を通じて、郷土の野生動物に対する自然保護意識を高めています。（わんぱくこうちアニマルランド 大地博史）

水族館 サメの歯 アクセサリー作り



足摺海洋館では、定期的にイベントを行っているのですが、その中的人气イベントの一つに、「サメの歯アクセサリー作り」があります。

夏休み中に親子で行うこのイベントは4年前から実施しており、内容は、参加者がサメの歯を顎から取り外し、それでアクセサリーを作ることを中心に、サメという生き物を少しでも理解してもらえよう、クイズ形式でサメの事を学んでもらったり、実際にサメの標本にさわってもらったり、一日かけて行う盛りだくさんの内容です。

このイベントを始めるきっかけは、土佐清水市のブランドで知られる「清水さば」漁で、サメの被害を減らすため行われている「サメ駆除」により捕獲されたサメの利用法の一つとしてでした。

駆除したサメの有効利用がねらいでもあるため、土佐清水漁業指導所や高知県職員が構想段階から協力して意見を出し合い、開催時にも多くの人の協力のもと充実した内容で行う事ができるものとなりました。

イベントの開催には多くの労力と時間が必要となりますが、その解決法の一つを教えてくださいました。

（高知県立足摺海洋館 京谷直喜）

図書館 展示で引き出す図書館の魅力



モノの庭・北川村観光協会との連携展示

ふと手にした本に新たな世界を見て、人生がじわりと変わってくる。図書館が持つそんな発見の可能性をさらに引き出す仕掛けとして、私たちは本の展示に取組んでいます。身近な話題から世界的な時事問題まで、時にリクエストもいただき、大小とりまぜ館内10ヶ所以上。目立たぬ本が突如脚光を浴びたり、思いがけない本が隣り合ったり、展示ならではの面白さを出す選書は腕の見せ所です。例えば『この思いどう伝えようか』と題した展示では、モリス通信の本から花束の本まで、伝達にまつわるあらゆる切り口で本を並べました。

様々な機関とコラボし、連携展示や相談会、講演会の会場等で関連本を貸し出す出前図書館にも取り組んでいます。図書館という枠組みを柔らく開き、時に飛び出す活動は、本と人、人と人が出会う機会をさらに広げてくれます。

発見の喜びや人とのつながりを糧に生まれた物が積み重なり、また新たな出会いと創造が起る。そんな創造の循環の舞台たる図書館の可能性を、若干の遊び心も込めた仕掛けの数々で、もっと楽しくもっと豊かに引き出したいと思っています。

（高知県立図書館 山本那美）

地域資料保存に向けた取り組み

平成24(2012)年度、こうちミュージアムネットワークでは、新たに「地域資料調査部会」を立ち上げ、高知県における地域資料の保存問題に対する具体的な取り組みをはじめた。その第一歩として取り組んだのが、「歴史資料」の保存等に関するアンケート調査の実施(期間/平成25年1月25日~3月22日)である。

今回の調査の目的は、地域で継承されてきた歴史資料の所在や保存状況が全体的に把握できていない現状を踏まえ、高知県内の歴史資料の所在を概略的に把握すること、またそれらを管理する機関が抱える問題点を明らかにすることである。対象機関は、各自治体の教育委員会など文化財保存に携わる担当部署、資料館、美術館、図書館の計171カ所、古文書や旧役場文書など、記録資料を中心に幅広い歴史資料の情報提供を求めた。

調査票では具体的に、自治体自らが管理・保存する歴史資料と、自治体が把握する民間所蔵の歴史資料の種類・点数・保存場所・台帳や目録の有無などを質問している。

調査で得られた情報は、南海地震など、災害時の資料救出活動や新たな資料保存体制の構築に向けて活用すべく、基礎資料として現在集計を進めているところである。

平成25(2013)年度からは、調査結果について各自治体と共有を図っていくとともに、より詳細な歴史資料の所在と保存状況を把握するため、特に津波などで大きな被害が想定される地域を優先的にモデル地区として選定し、現地調査を行っていく予定である。

高知県では、これまで地域資料の保存対策について、県全体での取り組みは行われてこなかった。こうした中で今回の調査は、当ネットワークの単独ではなく、高知県(文化生活部文化国際課)との共同事業で実現したという点においても画期的であった。また自治体の中には、調査票を回答するにあたり、各施設で所蔵している資料を再点検し、保存を考えるきっかけになったという声もあり、既にアンケートそのものが、各自治体での資料保存のあり方に影響を与え始めている。

高知県の地域資料保存の取り組みは、始まったばかりである。今回の調査が発点となり、さらに県や市町村、そして所蔵者を巻き込んだ具体的活動へと展開できるよう、取り組みを前進させていきたい。

(土佐山内家宝物資料館 田井東浩平)

※高知県の地域資料保存の現状、当ネットワークのこれまでの経緯については本通信10号『現場通信』参照。

24年度の活動報告

平成24年度から事務局が(公財)土佐山内家宝物資料館になりました。

【企画調整部会】

- ・総会 6月5日
- ・幹事会 4月27日、1月9日
- ・会報誌11号編集

【研修企画部会】

- ・情報交換会(6月5日)
- 報告・松村信博(香南市文化財センター)
- 松本志帆子(薬工ミュージアム)
- 柳瀬実紀(香美市立吉井勇記念館)
- 中村茂生・磯田和秀(特定非営利活動法人地域文化資源ネットワーク)
- 会場・土佐山内家宝物資料館
- ・香美市立やなせたかし記念館新収蔵庫等の見学会(3月15日)
- 会場・香美市立やなせたかし記念館
- 香美市立吉井勇記念館
- 旧大橋高等学校

【教育普及部会】

- ・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員リスト2012」作成
- ・ホームページの更新
- ・高知市広報『あかるいまち』コラム「歴史方華鏡」リレー連載
- ・四国ミュージアム研究会(3月17・18日)

【地域資料調査部会】

- ・『歴史資料』の保存等に関するアンケートの実施

【新入会員】

- ・特定非営利活動法人地域文化資源ネットワーク
- ・民間非営利団体高知文化財研究所
- ・薬工ミュージアム



文化財の盗難対策

平成25(2013)年2月25日、文化財担当者・学芸員研修会「文化財の盗難対策について」が高知県立美術館にて開かれた。平成24(2012)年3月に発生した香南市恵日寺の重要文化財仏像の盗難に対して高知県文化財団主催(こうちミュージアムネットワーク共催)のもと県内から文化財担当者および学芸員が多数参加し、日本防犯設備協会 三澤氏から防犯について学んだ。また、平成22(2010)年から23(2011)年にかけて盗難被害が集中した和歌山県からは、県立博物館の大河内学芸員から活動事例が紹介された。

今回の研修ではハード・ソフト両面から対策案・事例が示されたが、まずは「いかに文化財を守るか」という認識を共有することの意義が強調された。私自身文化財行政に携わる者として所有者からお話を伺う機会があるが、まだまだ防犯意識にはばらつきがある、と感じている。また、意識は高くとも財政的な問題から対策には至っていない、そもそも無住で周辺に人家がなく対策が難しいなど課題は様々である。このような現状を踏まえたうえで文化財担当者・学芸員が一人ひとり高い防犯意識を持ち、それを伝播させていくことで大きな防犯ムーブメントに繋げていかなければならないだろう。(高知市民権・文化財課 須賀悠)

名 称	〒	住 所	電 話	FAX	HP	休
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月(祝日開館)※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月(祝日開館)※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月(祝日の場合は翌日)※
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝※
絵金蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月(祝日の場合は翌日)※
越前町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越前町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月(祝日の場合は翌日)※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザ八王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月(祝日の場合は翌日)※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火(祝日の場合は翌日)※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火(祝日の場合は翌日)※
高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝※
高知県文化推進課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12月第3木
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	無休
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 5-15	088-873-2421	088-873-5130	○	日祝、第1水※
高知県立図書館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-10	088-872-6307	088-872-6479	○	月祝、月末金※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土日祝※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8571	高知市鷹匠町 2丁目 1-43	088-822-6394	088-823-1095	○	土日祝※(H25.7 移転予定)
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・第2木※
高知城懐徳館	780-0850	高知市丸ノ内 1丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市棧橋通 4丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	土日祝※
高知市立市民図書館	780-0870	高知市本町 5丁目 1-30	088-823-9451	088-823-9352	○	月祝・20日※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市棧橋通 4丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3378	○	月(祝日の場合は翌日)※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	×	土日祝(第4日曜は開館)※
古溪城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込、1/1~1/8・旧暦3/21 開館
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月(祝日の場合は翌日)※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-22-0348	○	月(祝日の場合は翌日)※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村字土居山 2356	0880-35-4096	0880-35-4096	○	※
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝※
定福寺土佐豊永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
定福寺豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	×	※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月(祝日の場合は翌日)※
須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝※
創造広場アクトランド(龍馬歴史館)	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	臨時休館中(H25 開館予定)
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日(10~6月)・月(7~9月)
特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	780-0982	高知市東久万 87-12	088-823-5011 080-6721-3074		×	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝※
土佐山内家宝物資料館	780-0862	高知市鷹匠町 2丁目 4-26	088-873-0406	088-873-0406	○	※
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火(祝日の場合は翌日)※
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休
平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 高知市文化プラザかるぼーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月(祝日開館)※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
藁工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28	088-879-6800	088-879-6800	○	火(祝日の場合は翌日)※
わんぱーくこうちアニマルランド	780-8010	高知市棧橋通 6丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水(祝日の場合は翌日)※

※は特別休館日あり(年末年始等)

こうちミュージアムネットワーク通信 第11号

平成25(2013)年6月18日発行

■編集 こうちミュージアムネットワーク企画調整部会

(高知市立市民図書館/高知県立歴史民俗資料館/横山隆一記念まんが館/わんぱーくこうちアニマルランド)

■URL http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/network/konet_home.html

■事務局 (公財)土佐山内家宝物資料館 ■電話 088-873-0406

■印刷 弘文印刷(株)

前号の通信(10号)において「休刊の辞」を掲げていました。それは、本会が自立運営をする、活動経費は寄付金などをあてるとしたことにより「安定した財源が期待できないため」「ひとまず休刊」というものでした。現在も安定した財源がないことには何等の変化もありませんが、幸い今年度の寄付金で11号を発行することができました。